

株式会社 ナナオ様

新システムの導入で、 業務効率化を積極的に推進

「EIZO」ブランドで世界的に知られる映像機器メーカーのナナオは、IFS Applicationsの導入により、製造、販売、会計、マネジメントを有機的に結び、在庫削減や生産、調達リードタイムの短縮など、業務の効率化を図っています。

2001年、ナナオはERP導入の検討を始めました。当時はブラウン管から液晶への切り替え時期とも重なり、営業情報を早期に取り込むと同時に、在庫をリアルタイムに把握し、適正な発注と生産計画を結びつけることが不可欠でした。当時稼働中の汎用システムはすでに12年が経過していたため、システム間の連携が悪く、現行業務のニーズに対応するには難しい状況でした。

数あるERP製品の中で、ナナオがIFS Applicationsを選定した理由について、同社情報システム部業務システム課の

綿貫純二課長は「個々のモジュールが独立しているためカスタマイズへの対応が容易だったから。導入担当ベンダーとしては、従来から付き合いがあり、ナナオの業務内容をよく理解しているNECを選びました」と説明しました。

2002年11月にスタートしたプロジェクトは、2004年1月に生産・販売が、同年4月には会計が稼働を始めました。ナナオでは、IFS Applicationsの導入により、市場の変化に対し生産計画をタイムリーに変更できるようになり、同時に、セル生産とカンバン方式の全面展開が可能となりました。システム稼働後も、短期間のうちにリードタイム38%短縮という成果が得られるとともに、在庫削減にも寄与しました。また、人員を増強することなく生産数を増加できたのもERP導入による業務効率化の証左といえるでしょう。



ERPはあくまでもツールであり、これを効率的に運用し、ノウハウを付加していくのはERPを導入した企業の責務であるというのがナナオの考え方です。同社では、導入した新システムを日々の仕事の中に根付かせること、今の結果を定着させること、そして収集したデータを管理指標や経営指標に展開させていくことによって、今後も継続的な業務の改善を目指していきます。